

ほっかいどう

かいぱつグラフ

北海道開発局広報誌

Vol.35

2003 季刊



北海道開発グラフ

通巻第三十五号

二〇〇三年(平成十五年)十二月 監修

北海道開発局広報室

発行 財団法人北海道開発協会

〒001-0001 札幌市北区北11条西2丁目 センทรัล札幌北ビル
☎011-700-9511 FAX 011-700-9515

開発の日々の
ひとコマ



旧島松駅逓所 (北広島市島松所在)

国指定遺跡 旧島松駅逓所

駅逓は、人馬の宿泊設備を備えた駅舎で、交通が不便な地に設置されたものです。

島松駅逓は、明治6(1873)年札幌本道開通に伴い設置され、明治30年に廃止されるまでその重要な役割を果たしました。道内で現存する駅逓の中では最も古いもので、当時の様子を今に伝える貴重な建築物として、国の文化財にも指定されています。

また、ここは、札幌農学校(現在の北海道大学)で教鞭をとっていたクラーク博士が帰国する際、見送りにきた学生や職員たちに『青年よ大志を抱け』という名言を遺した場所と伝えられています。

冬の天津漁港

北海道東部の太平洋に面する天津漁港(豊頃町)は、周辺の陸地をくりぬいてつくられた、全国でも珍しい「掘り込み式漁港」で、サケの定置網漁を中心とする漁業の基地となっています。

昭和44年、第4種漁港(避難港)の指定を受け、翌年から北海道開発局が整備を進めています。

平成15年9月に発生した十勝沖地震では、津波により漁船が転覆、沈下や揺れにより岸壁や道路に亀裂が入るなどの大きな被害がありましたが、応急復旧工事によって、地震以前のにぎわいが戻っています。



「北海道開発グラフ」はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

特集●平成15年自然災害による被災状況とその対応

事業紹介／よみがえる農地 豊かな酪農郷をめざして

つなぐ最前線／憩いと安らぎの砂浜の再生を目指しています

開発事業のあゆみ／パイオニア・ロード「弾丸道路」

戦後の道路事業の先駆となった道

ピックアップ／北海道マリンビジョン21構想検討委員会
一般国道333号 北見市 北陽防災工事 完成

ちよつとひといき...道の駅／十勝エリアの道の駅

北国賦／故郷は賢治童話の原風景
版画家・絵本作家 佐藤 国男さん

平成15年 自然災害による被災状況とその対応

平成15年、北海道は、8月の台風10号、9月の十勝沖地震と相次いで大きな災害に見舞われました。

今回の特集では、これら自然災害による被災状況を振り返るとともに、開発局の対応と災害に備える取組について紹介します。

十勝沖地震

平成15(2003)年十勝沖地震の発生とその被害状況

平成15年9月26日4時50分、釧路沖を震源とするマグニチュード8・0(暫定値)の地震が発生しました。釧路町をはじめ、9町村で震度6弱を記録するなど、道東や日高地方を中心に道内各地で強い揺れが観測されました。

この地震により北海道太平洋岸東部と中部で津波も観測されました。

また、同日6時8分には、マグニチュード7・1(暫定値)の地震が発生するなど、以降も余震が続きました。

地震により、住宅の損壊や断水、停電、公共施設の損壊など、被害は多岐にわたり、多くの人々の生活に影響を及ぼしました。



大きな亀裂、沈下が発生した岸壁(釧路港 西港地区第4ふ頭岸壁-10m)



約70cmずれた橋げた(一般国道336号 十勝河口橋)



いくつもの大きな亀裂が入った堤防(十勝川 大津築堤)



液状化がみられた岸壁の背後用地(根室港 花咲地区岸壁-7.5m)



斜面崩壊により通行止めとなった国道(一般国道336号 広尾町タン子ソ)

北海道開発局の対応

北海道開発局では、地震が発生すると直ちに、道路や堤防などの安全を確認するため、各施設の緊急パトロールに出動します。被災箇所や二次災害の恐れのある箇所を確認すると、国道の通行止めや、障害物の除去、施設の応急復旧などを行います。

9月26日に発生した十勝沖地震では、緊急のパトロールの結果、国道の10路線25区間で通行を止め、応急復旧作業に当たり、9月29日6時には、すべての箇所での通行が可能となりました。

河川では堤防の亀裂、港では岸壁舗装の沈下などの被害を受けましたが、緊急の復旧工事で安全性を確保しました。

現在は、各施設で本復旧に取り組んでいます。



被災概要

(平成15年12月10日9時北海道総務部まとめ)

人的被害：行方不明者2名、負傷者847名

避難状況：避難勧告6,230名(10月4日9時全勧告解除)

自主避難928名(10月10日9時全自主避難終了)

→避難勧告0名、自主避難0名

住家被害：全壊104棟121世帯、半壊345棟449世帯、

一部破損1,560棟1,987世帯、

床下浸水1棟1世帯

電気：9月26日21時13分全戸復旧

火災状況：2市1町で4件発生

ライフライン等：●道道 通行止め19路線23箇所

未復旧1路線1箇所

●釧路空港 管制塔が使用不能になり閉鎖

→9月26日15:00業務再開

9月27日通常業務

●水道 10月3日18時全戸復旧

●JR 日高全線10月6日始発列車から通常ダイヤ

国の施設の被災状況

(平成15年12月20日北海道開発局まとめ)

河川：5水系14河川80箇所で堤防亀裂、沈下など

道路：15路線96箇所路面陥没、橋梁損傷など

港湾：8港129施設で岸壁舗装部分の沈下など

農業：4箇所の施設、農業用ダムで地山保護盛土表面のずれなど

漁港：5漁港23施設で岸壁舗装部分の沈下など



河川堤防の応急復旧状況(十勝川 大津築堤)



復旧工事が終わり、サケの水揚げを再開した大津漁港。赤点線が被災箇所。岸壁が、最大で約10cm沈下しました



橋梁の点検状況。2台の橋梁点検車で、9月27日から30日にかけて、各地の橋を点検しました(一般国道38号 下頃辺橋)



慶能舞橋は、応急復旧橋を架設して、8月12日14時に通行可能となりました。これをもって、国道の全箇所通行止めを解消しました



通行規制の解除に向けて、道路を覆った土砂の除去等を行いました（一般国道235号厚賀）

被害の状況

（平成15年9月25日北海道総務部まとめ）

人的被害：死者10名、行方不明1名、
重傷1名、軽傷2名

住家被害：全壊18棟18世帯、半壊13棟13世帯、
一部損壊20棟20世帯、床上浸水129棟
133世帯、床下浸水438棟482世帯

孤立集落：146世帯422名

避難状況：避難勧告7,304名、自主避難1,011名

ライフライン等：●電気 停電1,419世帯

●電話 不通357回線

●断水796戸

●道路 国道不通18路線30区間
道道不通50路線60区間
（うち道道未復旧6路線6箇所）

●JR 鶴川～様似間120箇所
（鶴川～静内間で代行バス運行中）
池田～豊頃間6箇所

●ふるさと銀河線 置戸～池田間21箇所

※孤立集落は全世帯解消、避難勧告は全世帯解除、自主避難は全世帯帰宅、ライフラインはかっこ書きを除いて復旧。

国の施設の被災状況

（平成15年8月22日北海道開発局まとめ）

河川：4水系23箇所河岸決壊、護岸損壊など

道路：6路線57箇所土砂流入、冠水など

農業：排水路1条で護岸損傷

北海道開発局の対応

大雨に見舞われたときには、河川のはらんや土砂の崩落が特に懸念されます。このため、北海道開発局では、雨量が一定の値を超えると、道路や河川のパトロールを実施して、施設の安全性を確認するとともに、緊急対策を講じます。

河川の増水に対しては、ダムによる洪水調節やポンプ車による排水を実施します。また、国道では、土砂の崩落や冠水のほか、その危険がある場合も、通行止めなどの規制を行い、土砂の除去などの復旧作業に当たります。

台風10号では、一級河川4水系8箇所のダムで洪水調節を実施し、国道18路線50箇所通行止め、被災した箇所では、直ちに復旧作業に当たりました。



二風谷ダムでは、8月14日から流木の引き揚げ作業を開始。9月11日には全ての流木を回収しました



河川の増水により橋台部分の土砂がえぐられ落下した橋（一般国道235号 慶能舞橋）



土砂が流れ込み通行止めとなった国道（一般国道241号 足寄町上足寄）



写真1～3 位置図



大量の流木をせき止め、下流域の流木被害を軽減した二風谷ダム。せき止めた流木量は、通常流れ着く量の約67年分に相当します

開発局には今後も治水の向上に努めてもらいたいですね



平取町 総務課長 川上 満さん

台風10号の大雨による平取町の被害額は、現在判明しているもので約85億円、これは町として過去最大です。二風谷ダムがなければ、急激に増えた水や流木がもつと下流に押し寄せ、被害はより大きくなっていったと思います。

平取町は、沙流川水系を抱え、川沿いには国道や道道が走り、住宅地や畑が広がっています。今回のような大雨に再び見舞われると、町民の生活に大きく影響することが予想されます。

このため、北海道開発局には、今後もダムの洪水調節機能や堤防の整備など、治水の向上に取り組んでもらいたいと考えています。

台風10号では、災害時の情報連絡体制について新聞やニュースで取り上げられましたが、今回の災害の経験を活かし、各機関が連携を深め、よりよい体制を整えていくことが重要だと思います。これからの北海道開発局や北海道などの動きに注目しています。

平成15年台風10号の概況と被害状況

台風の接近と前線の影響により、平成15年8月8日から本道は太平洋側を中心に強い雨に見舞われました。

特に、日高地方の平取町では、8月9日の1日で年間の3分の1に相当する雨が観測されるなど、各地で記録的な大雨となりました。

この大雨の影響で、住宅が損壊や浸水したほか、河川や道路等の公共施設が損壊するなどの被害が出ました。

また、農業、水産業、林業など、地域の産業活動も大きな被害を受けました。

災害に備える取組

地震に強い公共施設づくり

北海道開発局では、平成5年の釧路沖地震、北海道南西沖地震など過去の地震の経験を踏まえ、公共施設の耐震性を高める取組を進めています。釧路港第2ふ頭の南岸壁（12m）は、釧路沖地震時には、全延長にわたり岸壁の舗装部分が大きく沈下し、港の利用に大きな支障をきたしました。その後、液状化対策などを実施したことにより、この度の十勝沖地震では軽微な被災にとどま

施設の耐震効果の比較

釧路沖西港区 第2ふ頭地区 南岸壁-12m



釧路沖地震後（平成5年1月）
岸壁の舗装部分が、全延長にわたり大きく沈下するなどの被害を受けました

液状化対策
などを実施



十勝沖地震後（平成15年9月）
液状化対策などが効果を発揮し、被害はほとんど見られません

りました。

また、十勝川の統内地区の堤防は、十勝沖地震で4箇所亀裂がはいるなどの被害がありましたが、すでに耐震工法を用いて基盤処理を実施していた箇所では、ほとんど被害を受けていないことが判明しました。

そのほかにも、道路では既設橋脚にコンクリートを巻き付ける耐震補強、官庁営繕では免震工法による合同庁舎の建設などを行っています。

十勝川 統内地区の河川堤防



釧路沖地震後（平成5年1月）
堤防が大きく沈下するなどの被害を受けました

耐震工法を用いた
基盤処理による復旧



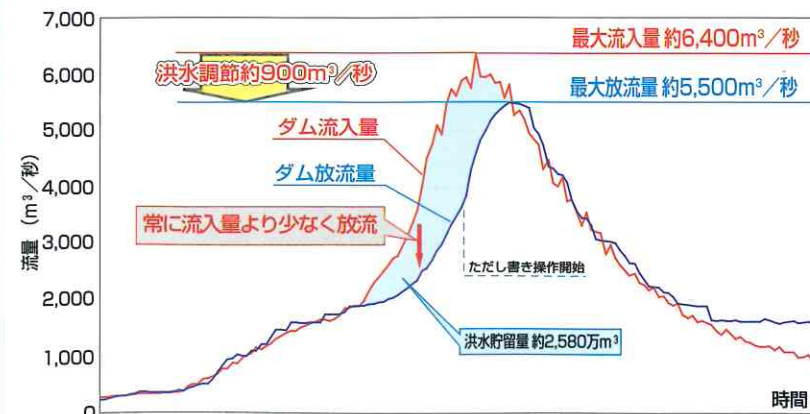
十勝沖地震後（平成15年9月）
基盤処理を実施した箇所では、被害はほとんど見られません

水害に備えるダムの管理と運営

民家や畑など人の生活圏は、川の下流域に広がっていますが、一般的にダムはその上流につくられています。ダムは、大雨や大量の雪解け水といったため込み、徐々に放流する（これを「洪水調節」と呼んでいます）ことにより、下流の生活圏における急な増水による被害を防止・軽減する役目を担っています。

北海道開発局が管理する道内13箇所のダムでは、3月5日24時間体制でダムや河川状況や気象を監視しながら、貯水量や放流量を調整しています。

台風10号における二風谷ダムの洪水調節効果



ダムに水をためて流入量より放流量を少なくしたことにより、ダム下流域を流れる水量が減り、下流（平取観測所地点）の水位が約1m下がったことが確認されました。

災害対策用機械の管理と運用

北海道開発局では、地震や水害、火山噴火などの災害に備え、排水ポンプ車や照明車、応急組立橋などの様々な災害対策用機械を道内各地に配置し、いつでも出動できるように体制を整えています。

また、これらの機械は、市町村などの地方公共団体からの要請にも応じて貸し出され、各地で内水排除（※）作業などに活用されています。

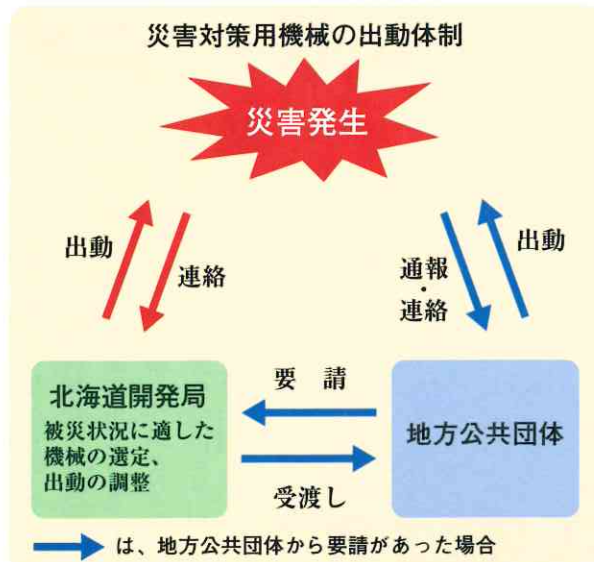


夜間の復旧作業を支援する照明車



内水排除作業を行う排水ポンプ車

※内水排除：河川の増水時、支川や排水路の水が、水位の高い合流先の河川へ流入できずにあふれる場合、住宅や農地などの浸水被害を防止・軽減するため、ポンプにより合流先河川へ排水すること。



災害時の情報の主な入手先はこちら

北海道開発局などが提供している情報をご利用になれます。

●道路の通行規制情報等

「(財)日本道路交通情報センター」

(電話番号)

0570-011011

#8011(携帯電話専用)

※最寄りの道路交通情報センターにつながります。

「北の道ナビ」

(アクセス方法)

インターネットURL入力

パソコン

<http://northern-road.jp/navi/>

携帯

<http://n-rd.jp/>

※i-mode、EZweb、

Vodafone Live! 共通

道路の通行規制区間については、19ページにも掲載しています。

●河川の水位、ダム情報等

「川の防災情報」

(アクセス方法)

インターネットURL入力

パソコン

<http://www.river.go.jp/>

i-mode

<http://i.river.go.jp/>

防災システムの整備と防災情報の共有化

北海道開発局では、災害時の迅速な情報収集のため、現地の状況を調査するヘリコプターやパトローラーなどの機械、道路や河川の状況を常時観測する観測機器、データを電送する通信機器・通信網などの整備を進めています。

しかし、ほかの防災関係機関との情報の共有については、火山防災以外では、これまで充分ではありませんでした。

災害情報を誰もが活用できるように共有できれば、より迅速な対策と被害の拡大防止につながります。

このため、北海道開発局、気象台及び北海道は、平成15年10月に、有識者とともに地域防災情報共有検討会を設置し、防災情報の共有化と一般の利用者へのわかりやすい情報提供のあり方を検討しています。

地域防災情報共有化のイメージ



道の駅

十勝エリアの道の駅

一直線に植林された防風林、どこまでも続く田園風景、特産のおいしいもの……大きな空と大地が続く十勝には、9か所の道の駅があります。今回紹介するのは、チーズで有名な足寄と、温泉ホテルをリニューアルした忠類の道の駅。道の駅を上手に活用して、広大な十勝の旅の楽しさを広げましょう。



足寄湖

[国道241号 足寄町]

湖のほとりに建つチーズの館で、のんびり見学、のんびり買い物



チーズ工場が道の駅。緑の季節には足寄湖が一望できるテラスでお茶や食事をゆっくり楽しみたい

高原の道を走っていると、ヨーロッパ風の大きな洋館が見えてきます。それが道の駅「足寄湖」になっているチーズ工場「エーデルケーゼ館」。面積1408.20㎡という日本で一番広い足寄町は、酪農の町でもあります。チーズ作りも10年以上前から行われ、「足寄カマンベール」



道の駅で作られたチーズや発酵バター、足寄だけに自生するラワンぶきの佃煮などがお土産に好評。地方発送可

は全国的に知名度の高い商品です。館内ではガラス越しにチーズの製造・熟成行程が見学でき、2階の喫茶店では、カマンベールチーズ入りカレーや特産ラワンぶきの炊き込みご飯が好評。売店には、町の湖の名前が付いた青カビ入りの「オンネトブルー」やグリーンペッパー入りのピリ辛タイプ、町内限定発売カマンベールなど、お土産によさそうなチーズ数種が並び、目移りしそう。試食をしながら、好みの味をゆっくり探すのも楽しい。また、地場産ミルクを原料とした口当たりが滑らかなソフトクリームもこの人気商品。寒い季節はミルクの脂肪分がたっぷりなので、一段とおいしいときです。



1階のチーズ工場。各国のチーズのパッケージや製造機械などを展示したコーナーも

☎01562-5-3901

忠類

[国道236号 忠類村]

リニューアルした温泉ホテルを拠点に、冬の十勝を楽しもう!!



物産センターの休息所。足を伸ばせる畳の部屋があり、セルフサービスでお茶も飲める

忠類村は、南十勝の中央に位置する人口約1,800人の小さな村。昭和44年に、12万年も前に生息していたナウマン象の化石が発見されたことで一躍有名になりました。道の駅「忠類」の目印は、国道236号から見えるナウマン象親子の大きなレプリカ。広い敷地内にはナウマン公園、忠類物産センター、ナウマン象記念館（冬季休館）、ナウマン温泉ホテル「アルコ236」があるほか、車で3分の所には南十勝で唯一のスキー場「白銀台スキー場」も。スキーを楽しんだ後はぜひ、リニューアルしたばかりの「アルコ236」へ。ここの湯は肌がツルツルになると評判のアルカリ単純泉で、ジェットバスやサウナも完備。館内には和食料理が味わえる「故郷ちゅうるい」があり、松花堂弁当やふるさと弁当がおすすめ。さらに、物産センターのアイスクリームコーナーにも注目。パニラ等の定番に加え、ワサビ、黒ごま、カボチャ、ヨモギ味も。中でも、ピリッとした後味のワサビ味は一度食べたら癖になる人が多いそうです。



24時間トイレ（左）と休息所が充実している物産センター



石器時代をイメージして石を埋め込んだナウマン温泉の露天風呂

☎01558-8-3236

応募総数49,171名!!「スタンプラリー2003」は大盛況のうちに終了いたしました。

ただし全駅完全制覇へのチャレンジは2004年3月31日(水)まで。74駅以上のスタンプがあれば、もちろん「完全制覇認定証」及び「全駅制覇ステッカー」がもらえます。

詳細は、北海道開発局のホームページからご覧いただけます。 <http://www.hkd.mlit.go.jp>



憩いと安らぎの砂浜の再生を目指しています

室蘭開発建設部 苫小牧治水総合事業所
海岸係長 久保 徳彦



胆振海岸の沖合で整備が進む人工リーフ。周辺では、ホッキ貝やウニなどの生息が確認されています。

これからの目標は、「砂浜の再生」です。人工リーフだけでは、砂浜が自然に再生するまで長い年月がかかります。そこで、砂をほかの場所から持ってきて人工的に海岸に戻す「養浜」と組み合わせることを検討しています。少しでも早く、再生した胆振海岸の砂浜で、人々が憩い安らぐ風景を見たいですね。

海岸には、仕事では毎日出かけます。完成した護岸などの施設が、市民の方々に利用されているのを見ると、自分の仕事にとってもやりがいを感じます。一方、困っていることは、不法投棄の多さです。行楽のゴミだけではなく、時には電化製品や自動車まで捨ててあるのです。年に一度、地域の方々にゴミ拾いに協力していただいています。作業が終わればまたすぐゴミ。一部の心ない方々のために、海辺が汚れてしまうのは非常に残念です。



年に一度、地域の方々の協力を得て、海岸のゴミ拾いを行っています。



最・前・線

開発局と地域を結び
主役はまさに“ひと”
地域の人々と一緒に考え、行動する
その最前線に立つ姿を紹介します

胆振海岸は、苫小牧市から白老町にかけて太平洋に面する海岸です。高波による被害を防ぐため、北海道開発局では海岸保全事業を実施しています。

胆振海岸では、昭和40年代から砂浜の浸食が進み、今では波が海岸の護岸のすぐそばまで迫っています。このため、台風や季節風の影響による高波で、護岸が破損したり、付近の住居や道路に波しぶきがかかったりするなどの被害が出ており、大きな問題となっています。

現在、苫小牧治水総合事業所では、このような被害を防ぐために、護岸や人工リーフなどの海岸保全施設の整備を進めており、私はこれらの工事の設計や監督などを担当しています。

人工リーフというのは、コンクリートブロックを沖合の海面下に積み上げたもので、護岸に迫る波の勢いを弱める働きをします。海岸との間に穏やかな海域ができるので、砂浜の再生と水産資源の増加に役立つことも期待されています。工事は、海上作業となることから、気象や波の高さに影響を受けますが、意外なことに、冬の方が夏に比べて波の穏やかな日が多く、作業がはかどります。

「ゴムスレー」は、雪の上をドーナツ型のゴムチューブで滑り降りる、スリル満点の楽しい遊びです。

冬の間、滝野すずらん丘陵公園は「滝野スノーワールド」に变身し、「こどもの谷」には長さ200mのそり専用ゲレンデが登場します。ゴムスレーは無料で借りられ、S字コースもあって、子どもも大人も楽しめます。

スノーワールドの開園は3月31日までです。



大きな
ドーナツでそり滑り

国営総合農地防災事業（泥炭型）
南標茶地区



標茶町の酪農風景。標茶町は、国内第2位の生乳生産量を誇る酪農の町です。

豊かな酪農郷を守るために
南標茶地区

標茶町で生産される生乳は、約16万8千トン（平成13年）。これは、日本人約440万人分の牛乳消費量に相当します（※）。食生活の多様化が進み、健康志向が高まりつつあることから、今後も生乳の需要は拡大することが予想されます。しかし、標茶町では、泥炭地の農地で地盤沈下による被害が発生しています。このため、南標茶地区で国営総合農地防災事業（泥炭型）を実施し、農地の機能回復を図っています。

この地区は、釧路湿原に近いので、湿原への土砂の流出を抑制する沈砂池を設けるなど、周辺の自然環境との共生を図りながら整備を進めています。

※日本人一人一年間当たりの牛乳消費量381kg（平成13年食料需給表）で換算。



周辺の自然環境に配慮した排水路



湿原への土砂の流出を抑制する沈砂池（イメージ）



整備後は……

農地の機能が回復し、生産性が向上します。安全・安心な食料の安定供給につながります。

よみがえる農地 豊かな酪農郷をめざして

国営総合農地防災事業（泥炭型）

北海道は、全国の農地の約1/4に当たる約120万ヘクタールの農地を有し、国内の重要な食料供給基地としての役割を担っています。北海道開発局では、農業に欠かすことのできない水の確保や農地の整備など、様々な面から北海道農業を支援しています。

今回は、泥炭地で行っている国営総合農地防災事業（泥炭型）の概要と実施中の地区を紹介します。

泥炭地の農地では……



水はけが悪いため水たまりができています。



埋木が浮上し農作業の妨げとなっています。

国営総合農地防災事業（泥炭型）の実施



●排水施設の整備・改修 ●障害物（埋木）除去 ●整地（凹凸をならす）

農地をリフレッシュ
国営総合農地防災事業（泥炭型）

北海道では、泥炭地を改良した農地が、農地全体の12分の1に相当する、約10万ヘクタールに及んでいます。

ところが、泥炭地の農地では、長い年月の間に地盤沈下が進み、地表面に凹凸ができる、埋もれ木が浮上するなどの状況が現れ、農作業に支障が出てきています。このような状況は、広範囲にわたっており、放置すれば収穫減や品質低下を招きかねません。

国営総合農地防災事業（泥炭型）では、農地の排水施設の整備や改修をはじめ、障害物の除去、整地などを総合的に行い、農地の機能回復を図っています。このことにより、生産性の向上や農家の安定した経営が図られ、安全な食料の安定供給につながります。

現在、道内では約7,400ヘクタールでこの事業を進めています。



版画家
絵本作家
佐藤 国男

Sato Kunio



故郷は賢治童話の原風景



佐藤さんの工房に掛けられている愛らしい看板



宮沢賢治の童話「かしわばやし」より 版画・佐藤国男



工房の本棚には、佐藤さんが興味のある
縄文時代の本がスラリ



主な作品
「大男ボルス」(北水)
「銀河鉄道の夜」(北海道新聞社)
「ゼロ弾きのゴージュ」(ベネッセ)
エッセイに
「山猫博士のひとりごと」
「続・山猫博士のひとりごと」(北水)
など多数

Profile プロフィール

佐藤 国男(さとくにお)

1952年、北海道瀬棚郡北檜山町生まれ。少年時代から大工や絵描き、考古学者にあこがれる。大工を生業にしながら、25歳の頃より宮沢賢治の世界を木版に彫りつけ、現在、木版画家として活躍。北海道新聞・函館版に木版画とエッセイ「山猫博士のひとりごと」を連載中。はこだて絵本と紙芝居の会の会長も務める。

川で魚捕りをして遊んだ記憶は「風の又三郎」の情景の中で再現されます。高校を卒業するまでの間、勉強などやった記憶は全くありません。年がら年中野山を走り回っていましたから、一体どんな大人になるのかと心配もかけたのだけど、今となっては考えてみると、大自然の中で遊び回ったひとつひとつの体験が、賢治童話の作品づくりの貴重なイメージづくりに役立っているわけで、人生何が役に立つかわからんのだと笑うばかりです。

たものだからその晩、台所の下で大ばくはつを起こし、せっかく一升ビンにつめたブドウが全部はじけ飛んでしまい「人の言うことを何も聞いてないからだ」と叱られたものです。宮沢賢治の童話「かしわばやし」の夜では、お百姓の清作が、やはり法律いはいんと知りつつ、自家製のブドウ酒をこっそり造って、全部はくはつさせてしまう情景が愉快に描かれています。実際に体験していると、その清作の気持ちが手にとるようになるのです。



「風の又三郎」の版画。タイトルは飛翔

私が生まれ育った所は道南の北檜山町で、山海・川などの自然豊かな所でした。何度も清流日本一となった後志利別川が町のまん中をとうとうと流れていて、小学生の頃はよく魚つりをしました。いつも一緒につりをしている近所のそば屋のおじさんが、金色に輝く大きな鯉をつりあげ「ドイツ鯉だ、ドイツ鯉だ」と興奮して叫んでいた姿が今でも目に浮かびます。利別川の上流は江戸時代、日本一の産出量をほこった砂金の産地でしたから、あの見事な金色の鯉もきつと砂金に關係があるかも知れないぞ、と子ども心に考えたりもしたのです。

河原に、金色に輝く小粒の砂がピカリピカリしているものだから皆で大騒ぎしましたが、学校の先生の所へ持っていくと「これは金雲母で全く価値のないものだ」といながら指先でひとひねりすると、黒いホコリみたいなものになってしまし、ただただがっかりしてしまいました。つり仲間の一人が「マレップ」といしかけて鯉を捕ったぞ」とこっそり言いました。

マレップはアイヌ民族の鯉捕りの道具で、この利別川流域ではつい最近まで密漁の手段として使われていたものです。九月はもう川の水は冷たく、水泳なんか無理な季節なのに、友人は寒さでくちびるも紫にしてガチガチふるえながら、ジャカゴの下に隠れひそむ鯉をマレップで捕ったのだとほこらしく言うのです。私はその友人がうらやましくて仕方ありませんでした。何度、深い水底に隠れひそむ鯉の所にもぐっていき、マレップで仕とめた夢を見たことでしょうか。

秋になるとコクワや山ブドウを採りによく山に入りました。山ブドウは一升ビンにつめ、砂糖を少し入れておくとブドウ酒が出来ます。ブドウ酒造りは今も昔も法律ではやってはいけない事なのですが、そんな酒税法のどきどきと昔から、だれもが皆造り続けてきたことなりました。ブドウ酒を造っていると母親に「フタは新聞紙でも丸めてユルユルにしておきなさい」と言われたのに、コルクのフタをしつかり



「どんぐりと山猫」の絵本を開く佐藤さん。賢治の世界を版画で表現している

※ジャカゴ(蛇籠):河川の護岸・水流調整などに使うもので、鉄線などで粗く編んだ円筒形の籠の中に石を詰めこんだもの

パイオニア・ロード「弾丸道路」

～戦後の道路事業の先駆となった道～

「札幌―千歳間34.5kmの改良・舗装を1年で完成させよ」。昭和27年秋、米軍の要請を受けて国道36号の工事が始まりました。当時としては画期的な工法や技術が採用され、わずか1年で完成。「弾丸道路」は、戦後の新しい道路づくりをひらいたパイオニア・ロードとして、日本の道路の歴史に名を刻みました。



旧島松駅通所と舗装工事前の旧国道36号 (昭和25年)：北広島市所蔵



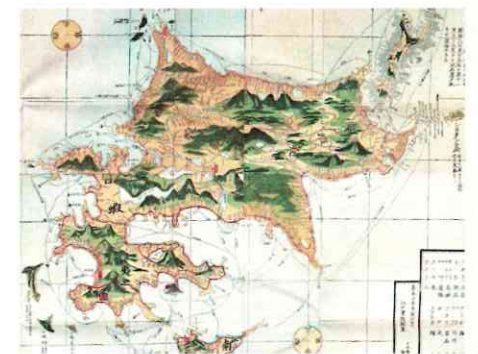
弾丸道路の開通式の様子 (昭和28年)：恵庭市所蔵



アスファルト基礎工事の様子：道路情報館所蔵



札幌本道開削の状況 (明治5年)：北海道大学附属図書館所蔵



「蝦夷蘭境輿地全圖」 (嘉永7(1854)年)：北海道立文書館所蔵



国道36号島松沢付近 (昭和32年)：北広島市所蔵

ブルドーザを用いた大規模な切り土(土を削り取る)作業：道路情報館所蔵



増大する陸上輸送を支える国道36号(手前)と道央自動車道(奥)

なにがなんでもやり遂げるんだ!

工期はわずか1年、しかも工事が困難な冬をまたぎます。そのため、北海道開発局は、道路工事では初めて大規模な機械を大量に導入して、工事のスピードアップを図るとともに、舗装材料には、当時主流のコンクリートではなく、施工スピードが格段に早く、価格も安いアスファルトを採用しました。また、寒冷地特有の道路の凍上(※2)被害を防止するため、路盤材料のひとつに火山灰を採用したことも画期的でした。

今日では通常の工法ですが、当時は、まだ研究・実験が進められている段階でした。しかし、わずかな期間で完成させるにはやはり大変な困難を伴いました。各現場とも早出残業は日常で、ときには不眠不休で工事に当たりました。仕事の意見の食い違いが、取っ組み合いに発展することもしばしば。それでも、「なにがなんでもやり遂げるのだ」という気迫と活気が現場に満ちあふれていたといえます。

培った技術を後世へ

そして迎えた昭和28年11月2日、米軍と交わした約束を果たし、道路は開通しました。当時の新聞は、「道土木史に金字塔」という見出しで伝えています。着工当初、この道路は軍用道路としての色合いが濃いことへの批判を込めて「弾丸道路」と呼ばれましたが、わずか1年という工事のスピードが驚きとなり、やがてこの通称は親しみをもって使われるようになりました。この工事で用いられた工法や技術は、後の道路工事に引き継がれ、改良されていきました。弾丸道路は、戦後の新しい道路づくりを拓いたパイオニア・ロードともいえます。

現在は、その後誕生した道央自動車道とともに、二本の幹線道路で増大する陸上輸送を支えています。

※1 ソロバン道路 そろばんのように路面が波打った道路
※2 凍上 地中の水分などが凍って地面が持ち上がる現象

道路通行規制情報をご活用ください

大雨や大雪、高波、地震などの異常気象時には、土砂崩れや道路決壊などの災害が発生する恐れがあります。このため、災害発生の危険性が高い区間では、周辺の気象や現地の状況を考慮して、危険を避けるため、通行止めを行うことがあります。みなさんのご理解とご協力をお願いします。



道路通行規制に関する情報は

●走行中は
道路情報板、案内標識、
路側放送 (AM1620KHz)



●電話から
道路交通情報センター
0570-011011
#8011 (携帯電話専用)

●インターネットから
「北の道ナビ」
「冬の峠案内」 <http://www.10ge.jp/>
※パソコン、携帯共通

石北峠、三国峠、狩勝峠、旭川紋別自動車道の通行規制情報やライブ映像などをご覧になれます。

でお知らせしています。どうぞご活用ください。

ホームページ「北の道ナビ」

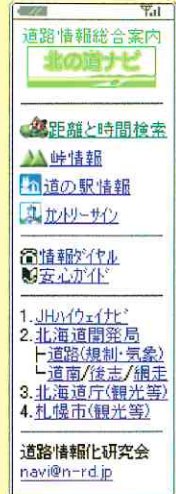
通行規制の実施状況や異常気象時の通行規制区間、峠の気象などの情報をご覧になれます。アクセスの方法は、次のとおりです。

パソコンから
<http://northern-road.jp/navi/>

携帯電話から
<http://n-rd.jp/>
※i-mode、EZweb、Vodafone Live! 共通。

通行規制情報は
こちらから

右写真は、携帯版画面のイメージです。



えぞためき

札幌に初雪が降った日、函館へ行きました。函館は、新人時代に広報誌の仕事で訪れた場所です。

あれから十数年がたちました。当時、建設真っ最中だった道路や港の施設は、完成して、今ではもうすっかり街の景色にとけ込んでいました。その中のいくつかは、観光ガイドで夜景の名所として紹介されています。観光都市の魅力づくりに一役買っていることもうれしく思いました。

同時に、新人時代の自分は、施設の完成後の姿をしっかりと思い描いていたのだろうか、その役割をきちんと伝えることができているのだろうか、と振り返ることにもなりました。

実感のこもった言葉で伝えることを大切にしていかななくてはならないと、改めて心に刻みしました。(H)

ふだんなにげなく見ている景色のなかに、人々の暮らしと生産をレベルアップするための舞台裏として、公共工事の苦労があることがよくわかった。
(旭川市 J・Tさん)

毎回道の駅特集を楽しみに読んでいます。これからも道の駅の紹介よろしくお願ひします。
(札幌市 R・Iさん)

特集で七飯町の赤松並木が掲載されましたが、私もそこを通るたび、いつもホッとする大好きな景観で、残してほしい所です。
(函館市 T・Kさん)

ひろば

34号アンケートはがきより...

「かいほつぐらフ」のアンケートにご協力ください

かいほつぐらフでは、アンケートを通じて読者の皆様から意見を募集しています。お寄せいただいたご意見は、広報誌づくりの貴重な参考資料とさせていただきます。ぜひアンケートにご協力ください。



アンケートの方法は...

- アンケートはがき
- 北海道開発局ホームページ <http://www.hkd.mlit.go.jp/>

「オンラインマガジン」

最新号
「アンケートにご協力ください」

ピックアップ

北海道水産業の将来像を描きます — 北海道マリンビジョン21構想検討委員会 —

北海道開発局は、北海道における水産業や漁港漁村の将来像を描いた「北海道マリンビジョン21」を平成7年度に策定し、漁港漁村の整備に活かしてきました。

しかし、近年、水産業を取り巻く状況は大きく変化し、食の安全や資源リサイクルの推進など新たなニーズへの対応が求められるようになってきました。そこで、昨年度、外部の有識者による検討委員会を設置して、これまでのビジョンを見直すこととしました。

現在、検討委員会では、水産物の流通や海域の環境保全などをテーマに議論を進めています。平成15年度末には、新たな「北海道マリンビジョン21」の案を提示できる見通しです。

なお、これまでのビジョンと検討委員会の概要は、北海道開発局のホームページ (http://www.hkd.mlit.go.jp/zigyoka/z_gyoko/) でご覧になれます。



北海道マリンビジョン21構想検討委員会の様子

通行規制を解消する新ルートが開通 — 一般国道333号 北見市 北陽防災 完成 —

一般国道333号北見市北陽で「北陽防災工事」が完成し、平成15年12月12日、新ルートが開通しました。この工事は、平成13年10月4日に発生した斜面崩落の復旧を目的として進めてきたものです。

工事では、ルートの一部に新たに仁頃トンネル(長さ910m)を建設しました。また、安全な通行のため、簡易分離帯と排水性舗装を整備しました。

新ルートの開通により、地域の生活に欠かせない救急搬送や物流、通勤・通学などの不便が解消されます。現在、災害の再発防止策として、人工衛星からの情報などを活用したパトロールシステムの試験運用と、関係機関との連携強化などを進めています。



新ルート開通後の様子

開発カレンダー 2004年1月～3月 ()内は開催地

1月10日～18日 平成15年度水素・燃料電池実証実験一般公開 (札幌市 札幌市青少年科学館)
10日: オープニングシンポジウム

1月26日 十勝沖地震シンポジウム (札幌市 サンプラザホール)

2月11日 食と農のシンポジウム (札幌市 ポールスター札幌)

2月24日～26日 第47回北海道開発局技術研究発表会 (札幌市 かでる2・7)



平成15年度内に、一般国道450号 旭川紋別自動車道 旭川愛別道路(比布JCT～愛別IC 10km)が、暫定2車線で開通する予定です。

北海道開発局長表彰式



平成15年12月15日、二風谷ダム管理所と富川道路維持事業所に対する北海道開発局長表彰が行われました。

両所は、台風10号に際し、的確なダム管理、緊急道路巡回、応急復旧や一般車両の救出作業などに当たりました。5日間にわたる不眠不休の対応は、被害の拡大を最小限に止め、地域住民の生活安定に寄与したとして表彰したものです。